

浅香山病院リハビリテーション部の歴史と活動

リハビリテーション部の歴史

浅香山病院は、2022年に創立100周年を迎え、今年が102年目となります。リハビリテーション部はと言いますと、1976年に現在のリハビリテーション部の前身である理学療法室が開設されました。開設当初は、理学療法士1名、助手1名でスタートし、2007年に言語聴覚士、2010年には作業療法士も加わり、名前を「リハビリテーション室」と改めました。現在では、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士合わせて約60名が在籍し、365日リハビリを行う回復期リハビリテーション病棟をはじめ、急性期から在宅までシームレスなリハビリを提供できる体制を整えてまいりました。

また、当院は精神科病棟が744床あり、精神疾患をお持ちの方の身体的な急性疾患に対するリハビリに加え、2019年からは、精神科療養病棟に長期間入院され、身体機能の低下がみられる患者様に対するリハビリも開始しました。



リハビリ部全体やチーム単位など、年間約40回の勉強会を開催し、最新の知見や技術など自己研鑽に努め、患者様へ提供できるよう努力を続けております。

コロナ禍での活動

200名以上の方にリハビリテーションを提供させていただき、心身共により健康で円滑に元の生活へ移行できるよう運動だけでなく、精神的な支えのひとつとなれるよう関わってまいりました。今後、未知の感染症等で同様の対応が必要となった際にも、浅香山リハビリテーション部には、COVID-19の経験を活かせるスタッフがいます。

その経験を学会でも発表させていただきました！



スペシャルチーム

リハビリテーション部には、スペシャルなチームが存在します。

心臓リハビリチーム：心臓病の方に対して、1日でも早く快適な社会生活や家庭生活に戻り、その再発を予防し、生活の質を向上させることを目的に、運動療法を行っています。

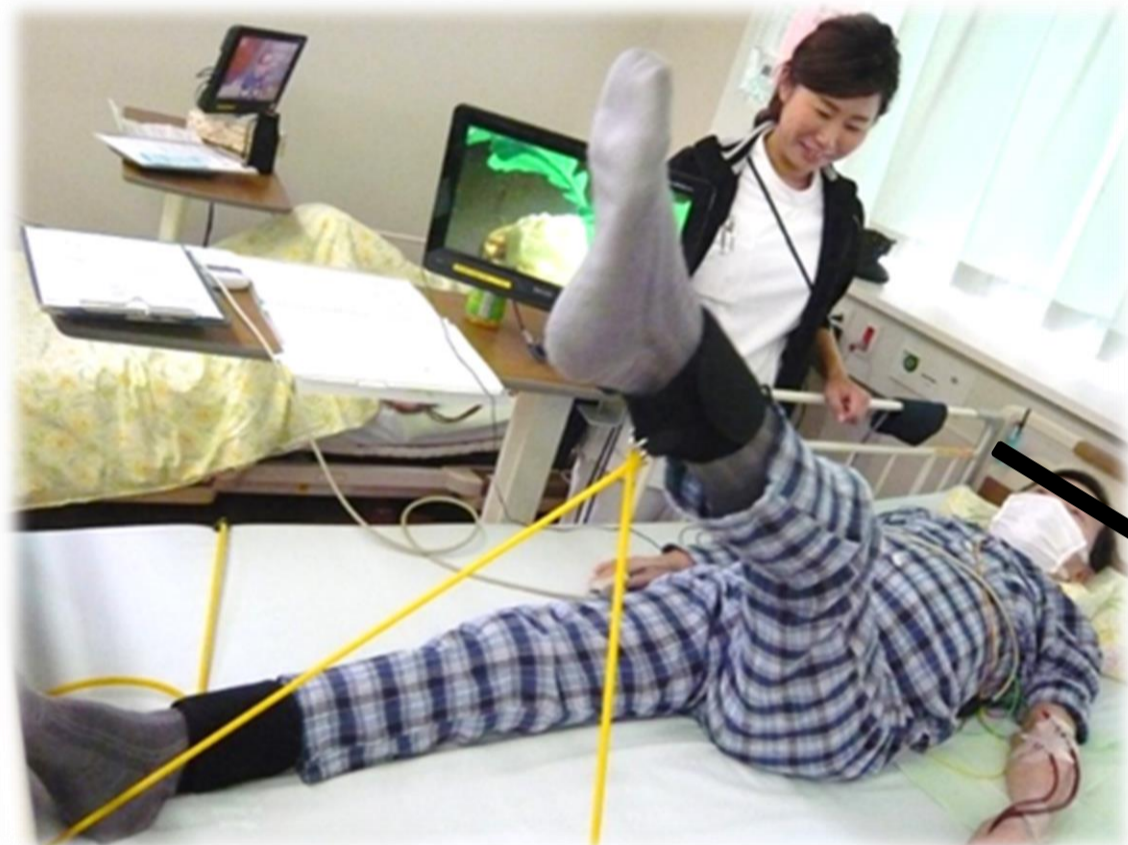
腎臓リハビリチーム：透析患者様に対して、運動の必要性を理解していただき、透析中に運動療法を行い、運動習慣をつけていただくよう活動しています。

糖尿病リハビリチーム：糖尿病の方に対して、薬物療法・食事療法に並び、血糖コントロールには運動療法も重要であることを理解していただき、運動に対する正しい知識や方法を提案し、運動習慣をつけていただくよう活動しています。

呼吸器リハビリチーム：入院中の人工呼吸器管理を必要とする患者さまに対して、他職種と連携し、人工呼吸器の早期離脱を目指し活動しています。また、離脱後も必要に応じて呼吸指導や運動療法・指導を行い、退院に向けた支援を行っています。



心臓リハビリ



腎臓リハビリ



糖尿病リハビリ

地域での活動

CKD(慢性腎臓病)教室：CKD患者さまを対象に、運動の楽しみ方や方法の紹介や握力などの体力測定を行い、運動の必要性をお伝えする教室を今年度は年9回開催を予定しています。

運動器機能予備調査：堺市地域の小中学校で児童の整形疾患等の早期発見、身体状況の把握をするための補助として、児童の運動器機能予備調査を行っています。

健康セミナー：地域の皆さまと一緒に、腰痛体操や体力測定などを行い、健康について考えるセミナーに参加しています。

ロコモ活動：地域貢献活動、介護予防の普及啓発を目的に”堺第2地域包括支援センター”と協働し、近隣校区の地域会館で「ロコモ度測定・運動指導」を行っています。地域在住の方々が少しでも健康や運動に興味をもって頂けるように取り組んでいます。

さいごに

今回は、リハビリテーション部の歴史から現在の活動を紹介させていただきました。今後も、「これまでの当たり前」ではなく「これからの当たり前」を常に考え勉強し、患者様それぞれに合った、また時代に合ったリハビリテーションを提供させていただきますので、よろしくおねがいいたします。

次回、10月号では「PTとOTの違い」について発刊予定です！乞うご期待！

参考資料：浅香山病院 100年のあゆみ 文責：坂口